



米国食肉輸出連合会

< 広報資料 >

2008年3月13日

**アメリカン・ミート輸出実績、2007年はポーク、ビーフともに日本でのシェアが拡大
2008年も積極的な展開で、日本市場でのさらなる成長をめざす**

2007年、アメリカン・ポーク、ビーフともに輸出量増加

米国食肉輸出連合会(USMEF <http://www.americanmeat.jp/>)は、2007年(1-12月)のアメリカン・ミートに関する輸入実績をまとめました。アメリカン・ポークにおいては、日本の輸入量が270,616トンで、日本における輸入豚肉の36%のシェアを占めました。国内の輸入豚肉全体が前年比5%増加したなか、米国産は7%の増加となっています。この要因としては、チルド輸送により、柔らかでジューシーな肉質と美味しさが消費者の間で認知されてきたこと、USMEFが日本で展開しているキャンペーン、プロモーションを通じて店頭で食べる、購入する機会が高まったことなどが考えられます。

アメリカン・ビーフにおいては、国内輸出货量34,147トンと、日本における輸入牛肉のうち7%の割合に上昇し、前年比467%の大幅増となりました。昨年は、流通/外食いずれの業界においても、アメリカン・ビーフの取り扱いを再開する企業が広がったことが、大きな伸びにつながったものとみえます。
(通関統計:日本政府)

2008年も積極的にアメリカン・ミート プロモーションを展開

USMEFでは、2008年も引き続きアメリカン・ミートの消費者向け、業界向けプロモーションを積極的に展開していきます。

特に今年は、これまで以上に、一般の消費者の皆様実際に食べてもらう機会を数多く設けていく予定です。これまで行なってきた店頭でのサンプリングや料理教室の際に実施するアンケートでは「美味しかった」「柔らかかった」という声が多数挙げられます。まだアメリカン・ポークを食べたことのない人、アメリカン・ビーフを食べなくなってしまった人たちに、改めてその良さを知っていただく、思い出していただくには、食べてもらうことが最も効果的であると考えています。

また、日本国内で、食品の安全性に対する意識が高まる中、アメリカン・ミートの安全性についても情報提供を継続していきます。

流通/外食産業に向けては、ポーク、ビーフともに「商材としての使い勝手の良さ」を訴求していきます。特にビーフでは、これまで日本ではあまり使われていなかった部位の提案により、新たな需要の拡大、供給ニーズの増加に対応していきます。去る11日より開催中の国内最大級の展示会である、『FoodEx Japan 2008』においてもブースを出展し、商材としてのアメリカン・ミートの魅力を訴求していきます。

メディアの方からのお問い合わせ

米国食肉輸出連合会(USMEF) 原田、山庄司
電話:03-3584-3911 / Fax:03-3587-0078